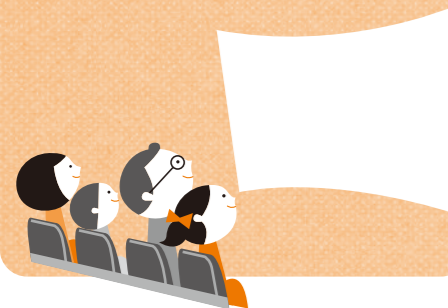


毎月第三日曜開催!! **無料**
子どものための上映会
 10月20日(日)「お月様とうさぎ」他
 上映時間 9:45~11:00
 14:00~15:00
 会場:パレア9階情報ライブラリー内
 *都合により上映作品を変更することがあります



パレア9階情報ライブラリーでは、男女共同参画、生涯学習、NPOに関する図書などの貸し出しを行っています。ぜひ気軽にお立ち寄りください。

男コピーライター、育休をとる。

魚返 洋平(著)
大和書房



育休制度があっても、男性の5%しか体験していないという社会のなかで6カ月の育休をとった社員の未知なる体験記。取得への道のり、職場復帰など、ぶつかる問題を余すことなく伝えます。

定年をどう生きるか

岸見 一郎(著)
SBクリエイティブ



「定年後の自分の居場所はどこにあるのか?」「新たな人生を充実させるためにすることは?」という不安に立ち向かうためのヒントを、アドラー心理学研究の第一人者である著者が紹介します。

コラム

「四賢婦人物語」に学ぶ

~時代を切り開いた矢嶋姉妹 その③

文・齊藤 輝代

母から娘たちへ
 生きやすい社会の実現を

四賢婦人の母鶴子の教養と人柄を横井小楠は称賛しました。また、娘たちは「母にはどうしてい及ばない」「母の内助の功がなければ惣庄屋の父の功績もなかった」と語っています。

いかに優れた女性でも、その力や社会の中で発揮することはできない時代でした。孫の徳富麿花は、「鶴子には女としての立場から疑問も注文もあつたのではないか。それを解きたいために7人もの娘を産み、分身である娘に『女』の完成を託したと述べています。三村鶴子が矢嶋家に嫁いで、今年ちょうど200年目です。明治、大正と鶴子の娘たちの働きは、確実に女性の地位向上の礎となったのです。

大正生まれの私の母は、出産後も教師として働きました。現代では想像もつかない社会状況で、気丈な母でしたが家事育児と仕事との両立は難しく、体を壊し30代で退職。療養生活の後、56歳で亡くなりました。昭和生まれの私は育休制度なども



さいとう・てるよ
 益城町在住。2014年度「熊本県民文芸賞」一席受賞。2015年「短編小説集百年の綿菓子」出版。2016年「第1回安川電機九州文学賞」大賞受賞。

活用し3人の子を育てながら仕事を続けました。へき地には乳児園がなく、長女と長男は近所の主婦や寺の住職に預かっていただくなど地域の方々の好意に支えられました。2歳になった長女は、園の計らいで1年早い入園を許可されたのです。「幼い頃から寂しい思いをさせたね」「2年間の山の生活は楽しかったよ」「働くお母さんが好きだったよ」詫びる私に、現在3児の母となった長女はさりとて応えます。

男女共同参画社会基本法施行から20年目。女性の生き方はさまざまに変化しています。出産後も働きたい女性たちが、ひげめを感じずに安心して働ける社会になるには、これらどれほどの時間が必要でしょうか。



矢嶋直明・鶴子とその子どもたち

*四賢婦人とは、幕末の頃、益城町の矢嶋家に誕生した竹崎順子(たけざき じゅんこ)、徳富久子(とくとみ ひさこ)、横井(よこい)つせ子、矢嶋帽子(やじま かじこ)の四姉妹。自ら行動を起こし、男女平等社会の礎を築くために尽力した人物です。

男性の生き方講座

本橋馨、56歳。
 人生これからは
 おもしろい!

「モッチャん」の愛称で親しまれているKKTエグゼクティブアナウンサーの本橋馨さんを講師に迎え、男性の生き方講座を7月7日、くまもと県民交流館パレアで開催しました。県内から集まった約100人を前に、人生100年時代の夫婦の在り方や定年後の生き方、自身の第二の人生などについてお話をいただきました。



講師 本橋 馨さん (KKTエグゼクティブアナウンサー)
 1963年生まれ。56歳。1986年、KKTに入社。「ズームイン朝」「ニュースプラス1 くまもと」のキャスターを務めたあと、1997年春「テレビタミン」のメインキャスターを担当。2018年3月末で「テレビタミン」を卒業。現在、「モッチャんTV」を担当。息子2人は独立し県外在住。妻と2人住まい。

人生100年時代。
 定年後に待ち受けること

21年間メインキャスターを務めた「テレビタミン」を2018年3月に卒業した本橋馨さん。「私はサラリーマンなので、あと3年半で定年を迎えます。次の生き方を真剣に考えないとダメです」と話します。平均寿命が延び、「人生100年時代」といわれる昨今、60歳で退職したあとも30〜40年ほどの、第二の人生が待ち受けているのです。

「夫婦で一緒に過ごす時間も長くなります。どうしますか?」と問いかけると、参加者はそろって苦笑い。ただ話を受け止めてほしいだけの妻、すぐに正解を出そうとする夫。「男女で考え方が違うから、会話が噛み合わない



夫婦での参加も多数見受けられました

夫婦円満の秘訣

- ・夫は妻のインタビューーになれ!
- ・夫は漫才のツッコミ役になれ!
- ・妻との話は商談だと思え!
- ・妻は夫に対して褒め上手になれ!

二番大切なことは、お互いに、どんなに小さなことにも感謝の気持ちを持つことだと強調します。「ありがたい」との一言が夫婦の潤滑油になるのです。

一生現役で
 第二の人生をイキイキと!!

「人生100年時代のキーワードは「一生現役」と話す本橋さん。「遊び」趣味も、趣味でも、仕事でもいいので、これに共通する何かを見つければ、それが一生現役になります。この日は、本橋さんがそれを意識して今後のライフワークとして取り組んでいる「講談調の紙芝居」を披露してくれました。通る声でテキパキと、時にはひょうきんな声色を使いながら表情豊かに話す本橋さんの姿に、参加者はぐっと引き込まれていた様子。紙芝居が終わると、会場は大きな拍手と笑顔に包まれました。

現状の仕事や生活にとどまらず、新たなことに挑戦する本橋さんに、参加者からは「自分のこれからの人生にプラスになった」「新しいことに挑戦しよう」という意欲が湧きましたなどの感想が寄せられました。



紙芝居では、本橋さん自身が調べて学んだ熊本ラーメンのルーツが紹介されました